一般社団法人
日本肩関節学会
Japan Shoulder Society

Newsletter 10
2018.06

理事長あいさつ

一般社団法人 日本肩関節学会理事長 柴田陽三

日本肩関節学会会員の皆様、紙面をお借りしてご挨拶を申しあげます。

さて、2016年10月に理事長を拝命して早1年半が経過致しました。ご支援頂きました会員、代議員の皆様に厚く御礼申し上げます。簡単にこの1年半の活動をご説明申しあげます。

本学会は肩関節外科学の進歩・発展に寄与する研究発表の場であり、この学術集会発表でもまれた優れた研究は海外へ情報発信されてまいります。その一助となるべく国際委員会では厳正な審査のもとに選考を行い、若手研究者を欧州、アメリカ、韓国の肩肘学会に派遣しております。先日、開催された留学生選考会では応募者全員が大変流暢な英語で素晴らしいプレゼンを行い、国際的なレベルで討論ができる研究者が数多く育ってきていると感じました。次世代の日本肩関節外科を担っていける方々であると考えます。

国内活動では2014年より使用可能となったリバース型人工肩関節(RSA)の執刀件数増加があげられます。RSAは厳格なガイドライン（患者適応、執刀医基準、施設基準、全例登録制度）を遵守することを条件に本邦で臨床試験を行うことなく保険収載された初めての人工関節です。導入された初年度の登録件数は100例以下でしたが、現在まで3851件が登録されました。解剖学的人工肩関節(TSA)の登録数が215件であるのに比して、18倍の登録件数となっています。RSAに対して今後も一層の期待がなされます。ガイドラインに準じて施行されたRSAを全例登録することにより、本邦での真の成績や合併症の発生頻度が明らかとなります。会員の皆様におかれましてはRSA, TSAを施行された際には是非全例登録を御願い致します。また､適応に迷う場合にはリバース型人工肩関節運用委員会宛にご相談頂けましたら幸いです。

これまで学術集会の会期中に開催しておりました会員連絡会についてお知らせ致します。会員連絡会で報告させて頂く内容は学会ＨＰ上で公開されていること、毎年応募されてくる演題数が増加傾向にあることから、今年大阪で菅本一臣会長のもとで開催される第45回日本肩関節学会学術集会から会員連絡会を中止させて頂くことと致しましたのでお知らせ致します。本学会からのお知らせは逐次HP上で更新しておりますのでご覧頂けましたら幸いです。

末筆になりましたが会員の皆様の益々の御健勝並びに御発展を祈念申しあげます。

第 45 回日本肩関節学会の開催に向けて

第 45 回日本肩関節学会　学術集会会長　菅本一臣　（大阪大学大学院運動器バイオマテリアル寄付講座）

このたび第 45 回日本肩関節学会を平成 30 年 10 月 19 日・20 日の両日に大阪国際会議場にて大阪大学が主催させていただくことになりました。

今回学会のテーマは「肩関節を議論する Discuss the shoulder」といたしました。近年日本肩関節学会でもグローバル化が叫ばれています。それを私なりに解釈した結果として、このテーマを考えました。

私が考えるグローバル化とは学会での英語の発表や討論も必要ですが、最も重要なことは日本独自のオリジナリティのある研究成果を如何に世に問うことができるかであると考えています。名古屋大学の名誉教授益川敏英先生は海外での英語の発表なくともノーベル賞を受賞されました。それはひとえに研究の素晴らしさが評価されてのことであると思います。私は少しばかり英語ができると自分では思っていましたが、それはグローバル化の本質ではないと知りました。

日本肩関節学会では遠藤寿男先生の loose shoulder や信原克哉先生の rotator interval lesion など独自性のある研究を様々に輩出してきたという輝かしい歴史があります。そのたいまつの火を後に続く先生方に渡していくためにも、本学会が成果あるものにしたいと思います。

年齢に関係なく日本肩関節学会においても素晴らしい研究が行われています。しかも、そのネタが十分に吟味されていないために、発表の段階ではもう一つ物足らないものも数多くあるように感じていました。今回の学会のテーマが「肩関節を議論する Discuss the shoulder」とあるように、許される限りの時間をかけて肩関節を十分に議論して、それを楽しみながら、素晴らしい研究となるように後押しができればと考えています。

例年の主題やシンポジウムはその年の４～５月頃に学会のホームページなどで初めて掲載されてきました。そのために十分な準備期間を設けることができませんでした。私が研究医となる以前には広く行われていたようですが、今回「宿題報告」という試みを提案いたしました。３テーマに関して、１年間の準備期間をもって十分な検討を行って、その成果を本学会にて報告していただきたいと思います。さらに大阪の街は最近再開発などが進み大きく変貌いたしました。学会だけではなく異国に迷ったかと思われる変化する大阪も十分に堪能していただきたいと思います。

第 46 回・47 回日本肩関節学会のお知らせ

第 46 回日本肩関節学会

学術集会会長：畑幸彦（JA 長野厚生連　北アルプス医療センターあづみ病院）
開　催　日　：2019 年 10 月 25 日（金）～ 26 日（土）（予定）
開 催 場 所：ホテル国際 21（長野県長野市県町 576）
THE SAIHOKUKAN HOTEL（長野県長野市県町 528-1）

第 47 回日本肩関節学会

学術集会会長：末永直樹（整形外科北新病院上肢人工関節・内視鏡センター）
開　催　日　：2020 年 10 月９日（金）～ 10 日（土）（予定）
開 催 場 所：ホテルエミシア札幌（北海道札幌市）

委員会報告

雑誌「肩関節」編集委員会

委員長 佐野博高

編集委員会では、雑誌「肩関節」第42巻にご投稿いただいた119編の論文について、現在第２稿の査読作業を進めています。2018年６月27日に第２稿の査読結果を各著者にご連絡し、第３稿の投稿締め切り日予定日は７月18日になります。例年通り８月中旬以降に著者校正をお願いし、９月中旬から10月初旬の発刊を予定しておりますので、締め切り厳守にご協力よろしくお願いいたします。

また、第91回日本整形外科学会学術総会期間中の2018年５月26日には、神戸国際会議場において対面での委員会を開催し、本誌の投稿規定等について討議を行いました。現行の投稿規定では、「臨床研究は原則として 1 年以上の経過観察期間とします」とされていますが、新しい手術法に関する報告や骨折に関する研究などは、１年以上の経過観察を行うこと自体が困難ではないか、という意見が多く出されました。こうした意見を踏まえて、近日中に投稿規定を一部改訂し、どのような研究であれば１年未満の経過観察期間でも掲載が認められるのか、例を挙げるなどして会員の先生方に分かりやすくお示ししたいと考えています。

会員の皆様におかれましては、本誌に投稿される際は日本肩関節学会の web site に掲載されている最新の投稿規定（http://www.j-shoulder-s.jp/entryrule/index.html）をご確認くださいますよう、お願いいたします。また、本誌に関しまして、もしご質問・ご意見等がありましたら、事務局までメールでお問合せいただければ幸いです。

国際委員会

委員長 菅谷啓之

国際委員会は、菅本一臣先生を担当理事とし、委員長菅谷啓之、委員として今井晋二先生、船越忠直先生、三幡輝久先生、望月智之先生、乾浩明先生の７名をメンバーとして活動しております。先日の第91回日本整形外科学会期間中に開催された委員会において、2018年度のASESおよびSECECトラベリングフェローの最終選考を行い、ASESトラベリングフェロー（２年に一度日本単独で２名派遣）として、慶應義塾大学の松村昇先生、北海道大学の瓜田淳先生が、SECECトラベリングフェロー（２年に一度日韓からフェロー１名ずつ派遣）として東北大学の萩原嘉廣先生が選考されました。今年はASESにもSECECにも一次選考からそれぞれ６名ずつの応募を頂き、最終選考もかなりレベルの高い争いになりました。2020年にも募集がありますので、皆様奮ってご応募下さい。

また、2018年３月８日、来春のKSES開催に合わせた韓国４週間のKSESトラベリングフェローの募集のご案内を差し上げましたが、募集締め切りが８月31日となっております。KSESトラベリングフェローも韓国の手術・施設見学および韓国肩肘ドクターとの人的交流など貴重な得難い経験ができますので、こちらも是非奮ってご応募頂きますようお願い申し上げます。

更に、10月の第45回日本肩関節学会の前後４週間に、韓国からの２名のKSESトラベリングフェローの受け入れを行います。現在、昨年よりお願いしております各地区担当者の先生方（北海道地区：大泉尚美先生、東北地区：山本宣幸先生、関東地区：高瀬勝己先生、中部地区：後藤英之先生、関西地区：三幡輝久先生、中四国地区：菊川和彦先生、九州地区：伊﨑輝昌先生）に地域別の受け入れ可能な施設をご確認いただいておりますが、これを受けて受け入れ先を７月末までに確定させたいと思いますので、こちらの方も宜しくお願い申し上げます。また、国際委員会では、個人的な長期海外留学の門戸を常に開いて斡旋のお手伝いをいたしますので、海外留学に興味のある学会員は遠慮なく国際委員会メンバーにお声掛けください。今

後とも国際委員会メンバー一同、日本肩関節学会員の国際化に向けて鋭意努力していきますので皆様宜しくお願い申し上げます。

髙岸直人賞決定委員会

委員長　伊﨑輝昌

第31回髙岸直人賞は、第44回日本肩関節学会学術集会で発表された論文のうちから下記の論文に決定しました。受賞者は、第45回日本肩関節学会学術集会全員懇親会において表彰されます。

基礎論文：
熊本大学大学院生命科学研究部整形外科学分野
米満龍史 先生
『陳旧性腱板断裂修復後のＦＧＦ－２による修復促進効果』

臨床論文：
中国労災病院　整形外科
中邑祥博 先生
『保存治療を行った腱板断裂の疼痛関連因子　-MRIによる検討-』

社会保険等委員会

委員長　橋口　宏

平成30年度診療報酬改定が行われ、薬価・材料がマイナス1.74%の引き下げであったのに対し、技術料にあたる本体部分は0.55%の引き上げとなりました。平成30年度は政府の財政健全化に向けた集中改革期間（平成28年～30年度）の最終年度となるため、社会保障関係費の増加を5,000億円に抑制する目安が設定されていました。しかし、高齢化の進展に伴う医療・介護の必要度の増加から平成29年８月時の概算要求では、前年度比6,300億円増が見込まれ、その差1,300億円の圧縮が求められていた中での本体部分0.55%の引き上げとなりました。外科系学会社会保険委員会連合（外保連）からの提案要望の採用件数・採用率ともに増加しておりますが、保険収載されていない医療技術が未だ多数認められることからも十分な引き上げとは言えないのが現状です。

平成30年度の改定では、日本肩関節学会からは肩石灰性腱炎に対する手術である「肩甲関節周囲沈着石灰摘出術」（3,600点）の点数および項目設定の見直しを要望しておりました。まず、外保連に対して「沈着石灰摘出術（肩関節）」および「沈着石灰摘出術（肩関節）（鏡視下）」として項目の修正を要望し、2018年試案に収載となりました。これをもとに提案要望書を外保連経由で厚生労働省に提出、その後厚生労働省ヒアリングを受け、最終的に「評価すべき医学的な有用性が示されている」と考慮され、「肩甲関節周囲沈着石灰摘出術 1.観血的に行うもの8,640点　2.関節鏡下で行うもの12,720点」として改定される結果となりました。今回の診療報酬改定におけるプラス点数372項目の平均改定率が119.98%、変更かつプラス点数6項目の平均改定率が226.81%であることを考えれば、観血的240.00%、鏡視下353.33%は非常に高い改定率であり、大きな成果が得られたと考えております。

診療報酬改定においては、手術等医療技術の適切な評価として「外保連手術試案等を活用し、診療報酬における手術の相対的な評価をより精緻にする」と記載されていることからも、外保連試案が重要な判断材料となっております。外保連試案に収載する上で実態調査は不可欠なものとなっており、本学会で行っている手術アンケートは綿密な集計作業と解析からも非常に有用な実態調査手法であると考えます。今年行わせて

頂きました平成29年の１年間の手術件数アンケート調査は、２月末日をもって締め切らせて頂きました。会員所属の約10%の施設から返答を戴きましたが、十分な数ではありません。現在、アンケート結果を集計・調査中ですが、再度アンケート依頼させて頂く施設もあると思いますが、ご協力を戴ければ幸いに存じます。アンケート調査の結果は集計・解析が終わり次第、雑誌「肩関節」に掲載する予定です。

今後とも多くの先生方のご協力を宜しくお願い致します。

教育研修委員会

委員長　後藤英之

今年度の教育研修委員会の活動および来年度の予定について報告致します。

第10回教育研修会を第45回日本肩関節学会開催期間中の2018年10月19日,20日（7:00-8:00）に開催予定です。

今回は２年間で一通りの肩関節疾患の治療や診断について研修できるようにプログラムを作成いたしました。

教育研修講演１
座　長：北新病院　上肢人工関節・内視鏡センター長　末永直樹先生
演題１：肩の機能解剖、バイオメカニクス
演　者：至学館大学健康科学部健康スポーツ科学科　後藤英之先生
演題２：肩の診察、画像診断
演　者：北新病院　上肢人工関節・内視鏡副センター長　大泉尚美先生

教育研修講演２
座　長：北新病院　上肢人工関節・内視鏡センター長　末永直樹先生
演題１：肩関節不安定症の診断と治療
演　者：東海大学整形外科　准教授　内山善康先生
演題２：腱板断裂（cuff tear arthropathy 含む）の診断と治療
演　者：慶友整形外科病院　整形外科部長・慶友関節鏡センター長　船越忠直先生

一昨年まで２回にわたって開催したキャダバーワークショップですが、今年度は会員の皆様からの要望もあって、10月26日（金）、27日（土）の２日間にわたって、名古屋市立大学先端医療技術イノベーションセンターにて開催することになりました。

名　称：日本肩関節学会（JSS）キャダバーワークショップ
日　時：2018年10月26日（金）～27日（土）
日　程：２日間
会　場：名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部　先端医療技術イノベーションセンター
募集人数：16名（予定）

現在、委員会、学会事務局にて募集の準備をしております。詳細が決まり次第、皆様にご連絡致します。

教育研修委員会としては、研修会やワークショップを通じて会員の皆様の日々の診療のお役に立てるよう活動して参りますので、今後ともご指導、ご意見を頂けますようお願い致します。

学術委員会

委員長 森澤　豊

学術委員会は、柏木健児、後藤昌史、小林勉、高瀬勝己、林田賢治、浜田純一郎、森原徹、山本宣幸の先生方から構成されています。担当理事は畑幸彦先生、委員長は森澤豊です。今回から田中栄先生、藤井康成先生に委員として加わって頂きさらに充実した活動を行っていこうと思います。

内容は、凍結肩の会員へのアンケート調査結果について、浜田純一郎委員が中心となり作成した論文"Is Contracture of the Shoulder Joint Classified as Stiff Shoulder or Frozen Shoulder? -Survey of Frozen Shoulder Questionnaire Responses from the Japan Shoulder Society-"の英文雑誌への投稿を引き続き進めています。用語におきまして、臨床の現場では五十肩、肩関節周囲炎はなお多用されていますが、海外の論文ではほとんどが凍結肩 (frozen shoulder), 癒着性関節包炎 (adhesive capsulitis) あるいは拘縮肩 (stiff shoulder) を使用しています。今後は、病態を示す診断名を使用する方向で活動していくよう考えます。

肩鎖関節脱臼の検査方法、分類、治療方法についてのアンケートを回収させて頂きました。調査結果につきまして高瀬勝己委員が主となり、分析して検討し報告する予定です。臨床の現場で活動している先生方への一助になれば幸いです。

初回脱臼に対する肩関節外旋位固定の前向き調査については、山本宣幸委員を中心にプロトコールを作成しており、協力して下さる 15 病院とともに前向き調査を開始する方向です。

会員の皆様には、アンケート調査など御協力して下さり有難うございました。今後も宜しくお願い申し上げます。

広報委員会

委員長 北村歳男

広報委員会では､年に２回のニュースレターを定期的に発行しています｡その目的は日本肩学会の最新の活動や情報を会員および一般の方々にお知らせすることにあります｡日本肩関節学会のホームページ内の右列｢日本肩関節学会　Newsletter｣のボタンから入ることができます｡昨年より夏号を６月に冬号を１月に発行しています｡学術集会の内容や雑誌肩関節の投稿規定の変更など､会員の皆様にすぐに役立つ情報を含んでいます｡また同時期より皆様に読みやすくなるよう字数を減らす工夫を行っています｡

広報委員会の具体的な活動の一部を紹介します｡ニュースレターの作成にあたっては､広報委員会の各委員の先生には執筆者からいただく原稿の訂正や校正を行う一定量の仕事が課せられます｡発行日の約２ヶ月半前から業務に入り(夏号では4月中旬から6月末､冬号では11月中旬から1月末まで)､さらに各号とも編集責任者が１名任命され､均等に業務分担を行っていきます｡第９号では新井隆三委員が､第10号では国分毅委員が編集担当者でした｡それぞれの発刊が終了するまで編集責任者には緊張を伴います｡Web会議とメールで､担当理事､委員長含め各委員全員が活発な意見を出して､正確な情報をお伝えできるように努力し､場合によっては執筆者に再度意見や訂正を求めることもあります｡２度３度見直しを繰り返し､発行までの日程が間に合うように調整しながら､事務局にお手伝いをいただいてニュースレターが発行されます｡以上が発行までの過程です｡このような仕事を今年度は､担当理事が望月由で､委員は新井隆三､石田康行､大前博路､菊川憲志､北村歳男(委員長)､国分毅､小林勉､中川泰彰､夏恒治(五十音順､敬称略)の合計10名で行います｡

また今年度の活動の1つにニュースレターの利用頻度の調査をあげています｡現在､WEBアンケートで調査中です｡この結果を分析し､利用頻度に応じた対策と利用頻度を向上させる工夫が必要と考えています｡第11号ニュースレターにアンケートの結果が報告できるよう進める予定です｡

財務委員会

委員長 林田賢治

2017 年度の財務委員会の活動報告をさせていただきます。2018 年度事業計画および予算の作成にあたり、３月に各委員会から事業計画案および予算案を提出していただき，４月 24 日に財務委員会 Web 会議を行い審議いたしました．今後，各委員会に修正等をお願いして最終案を作成する予定です．

一昨年まで財務状況は厳しく年会費の引上げ等を検討しなければならない状態でしたが、昨年度から会員の皆様のご協力のお陰で改善しております。

しかし、より一層健全な財務状況を維持するために、今後も無駄な支出を削減し、収入を獲得する努力を継続していかなければならないと思います。

2018 年度の取り組みとして、収入の面では引き続き過年度会費の徴収を効率よく行うこと、賛助会員様の新入会や口数の増加に取り組むことを挙げています。支出の面では各委員会を開催する際に、コスト意識を持っていただき、できるだけ Web 会議を利用していただくよう広報して行きたいと思います。また、選挙管理委員会には公報の方法として、積極的なメール活用による通信費の削減をお願いし、今回の予算申請に反映していただきました。

現在の年会費が適切かどうかは今後も問題として挙がってくると思いますが、Journal of Shoulder and Elbow Surgery（JSES）年間オンライン購読料のコストを考えますと現在の年会費はかなり安価なものと思われます。財務委員会では、広報委員会と協力し、会員の JSES オンライン購読の利用率をアンケート調査することになりました。会員の皆様にはアンケート調査へのご協力よろしくお願いいたします。また、多くの会員の先生に JSES オンライン購読を利用して年会費の特典を十分に活用していただけるようホームページに JSES オンライン接続方法を掲載しています。購読に際し参考にしていただければ幸いです。

今後も、会員の先生方には色々とご迷惑をおかけすると思いますが、現状をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

定款等運用委員会

委員長 中川泰彰

2017 年からの定款等運用委員会は、担当理事池上博泰先生、委員長私、委員が伊﨑輝昌、西中直也、林田賢治、松村昇、森澤豊の各先生方で構成されています。ニュースレター第９号以降では、５月 25 日に当委員会が開催されました。その時の審議内容をご報告いたします。

【報告事項】

1. 昨年の社員総会で変更になった代議員選出規則について

昨年９月の当委員会で、「第６条第３項　第２項の期間中に、正会員数の３分の１以上の異議の申し出が無かった候補者について社員総会で信任投票を行い、３分の２以上の信任が得られたものを代議員として選任する。また、第４条第２項の推薦基準（4）の候補者は他の候補者と別に扱う。なお、第４条第２項の推薦基準（1）から（3）の候補者については、前述の信任投票の結果が募集人数を超える場合には、再度投票を行い、獲得投票数の多かったものから順次当選するものとする。」と修正し、10 月の社員総会にかけたところ、「また、第４条第２項の推薦基準（4）の候補者は他の候補者と別に扱う。」の文面が削除された点について、委員の中での以下の通りの認識であることを確認した。この文章は削除されたが「第４条第２項の推薦基準（4）の候補者は他の候補者と別に扱う。」という解釈はそのまま残っている。

【審議事項】

1. 髙岸直人賞に関する規則の改正

高岸直人賞委員会から規則変更について依頼があり、審議した結果、もうすでに現在行われている審査方法に変更することになった。

2. 役員選出規則の改正

選挙管理委員会より、理事選挙の方法変更について提案があり、審議した。信任投票の後に、再度募集員数分の連記方式で選挙を行う現行の方式を、１度の選挙のみにしたいとのことであったが、１度目の選挙が募集員数分の連記方式であるかどうかを決めていなかったため、そのあたりの方式を、選挙管理委員会で再度審議していただくこととし、この議題は一旦選挙管理委員会に差し戻した。なお、10 月の社員総会時に、この選挙方法の変更案が承認されたら、その時点で文面が出来上がっていなくても、10 月の社員総会時の理事選挙から変更できることも確認した。

3. 代議員選出規則について

理事会からの提案で、代議員選出規則の第２条にある「正会員」がいつの時点であるかを明らかにしてほしいという案件であった。「選挙年の４月１日現在」とすることが理事会で決まっているので、第２条を「この法人に、選挙年の４月１日現在の正会員の 2%以上 4%以内の代議員を置く。」と変更する予定であるが、10 月の当委員会で再度審議することになった。

4. 功労会員について

理事会で功労会員を作ることになり、それに合わせた文面を作成することが提案されたが、功労会員の基準や、現在ある名誉会員とどう違うのかなどが決まっていないため、これらの内容が理事会で決定してから、当委員会で文面作成について審議することになった。なお、理事会で決定したら、その内容は当委員会に連絡が来ることになり、10 月の当委員会で十分審議する予定である。

今後も、定款を含め、色々な規則に問題点が生じてくることが予想されます。疑問点や、問題点に気づかれた方は定款等運用委員会までご連絡頂けると幸いです。よろしくお願いいたします。

リバース型人工肩関節運用委員会

委員長　菅谷啓之

リバース型人工肩関節運用委員会は、2018 年よりメンバーが一部変更され、担当理事井樋栄二先生、委員長菅谷啓之、従来からの委員である中川泰彰先生、橋口宏先生、水野直子先生、山門浩太郎先生に加え、新たに小林尚史先生と松村昇先生がメンバーとして加わり総勢８名となっております。また、ガイドライン作成委員会の当初から深く当委員会に関わってこられた髙岸憲二先生には、引き続いてアドバイザーとして委員会をサポートして頂くことになりました。

さて、2017 年２月 16 日の日本整形外科学会理事会で、より実用的になったリバース型人工肩関節ガイドライン改訂版が承認され発効されました。日整会ホームページより確認できますので、皆様再度ご確認の上、活用して頂くようお願い申し上げます。このガイドラインの本体部分は変わりませんが、運用規定が旧ガイドライン発効後５年となる 2019 年３月末をもって終了します。よって当委員会では、2019 年４月より発効する新運用規定（講習受講者の資格等）について検討を重ねてまいります。

また、懸案の JAR（Japan Arthroplasty Registry）登録率向上に関して委員一同鋭意活動してまいりましたが、現在リバース型人工肩関節の登録率は 60 ～ 70%とみられており、登録率 100% を目標としておりますので未だ不十分であります。学会員の先生方におかれましては是非とも登録のほどよろしくお願い申し上げます。登録方法に関しては、下記をご参照下さい（＊）。また、手術適応などで悩ましい症例などございましたら、事務局あるいは委員会メンバーにお問い合わせください。

＊ JAR（Japan Arthroplasty Registry）人工肩関節登録方法

1. 日本人工関節学会のホームページにアクセス
2. JAR 登録フォームをダウンロード
3. JAR 登録フォーム記入
4. 日本人工関節学会事務局に郵送

注：手術をされた病院が日本人工関節学会 JAR に登録されていない場合は、日本人工関節学会のホームページからまず JAR 施設登録を行い、施設 ID を取得して下さい。

選挙管理委員会

委員長　伊﨑輝昌

2018 年度は、理事選挙、代議員選挙、第 48 回学術集会会長選挙を行います。選挙案内、候補者等の情報は、随時、会員サイトに掲示します。なお、経費削減のため、メールアドレスを登録いただいている会員に対するハガキでの選挙案内は中止いたしますのでご了承ください。

1. 理事選挙について
役員選出規則に基づき、下記の要領で選挙を行います。
選挙日程：2018 年 10 月 18 日　社員総会で投票、当選人決定

2. 代議員選挙について
代議員選出規則に基づき、下記の要領で選挙を行います。
選挙日程：2018 年 8 月 17 日から 8 月 31 日まで候補者氏名等を掲示し、
正会員による異議申し立て受付（規則第 6 条 2）
選挙日程：2018 年 10 月 18 日　社員総会で信任投票、選任投票（規則第 6 条 3）、当選人決定

3. 第 48 回学術集会会長選挙について
定款第 39 条に定める学術集会会長について、学術集会会長選挙規則に基づき、
下記の要領で選挙を実施します。
選挙日程：2018 年 10 月 18 日　社員総会で投票、当選人決定

肩の運動機能研究会のあり方ワーキンググループ

委員長　浜田純一郎

肩の運動機能研究会のあり方 WG (以下 WG) の会合は、今年 10 月で３回目を迎えるとともに最後の会合になります。何とか肩の運動機能研究会 (以下研究会) のあり方を決められそうです。この場をお借りし、この３年間ご協力頂いた先生方や理学療法士の皆さまに深謝いたします。

前回のニュースレターに掲載した研究会の抱える問題に触れさせていただきます。日本肩関節学会 (以下学会) に併設した研究会は、そもそも学会と同時開催、開催経費を学会会長が参加費等の収入で賄います。学会は会員制であるため、情報共有がなされ、学術誌も整備されています。一方、研究会は未だに会員制でないため情報共有できない、社会的組織でないゆえ発表を業績として記録できないという困った状況でした。したがって、研究会の社会的あり方を検討し形にすることが WG の仕事でした。

昨年 10 月５日の学会社員総会で会員制研究会の発足に同意を頂き、会員制研究会を目指すことになりました。本年の 10 月 18 日の WG 会合にて、研究会役員人事、会則、会費等について協議し参加委員の多数決を得た段階で会員制研究会が発足する予定です。

今後も学会会員の皆さまにご意見を頂きながら、学会と同時開催され、豊富な情報を提供できる研究会を目指しますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

学術集会検討ワーキンググループ

担当理事　井手淳二

2017 年 10 月５日の社員総会（代議員会）において、学術集会における問題点を議論するなかで、今後の学会のあり方として理事会と学術集会会長との風通しのよい運営を行ってもらいたい旨の要望が出されました。そこで、学術集会の内容・運営について事前に理事会が把握しておく目的で本ワーキンググループが発足しました。

2018 年２月 23 日（金）13:00-15:00 東京国際フォーラムにおいて初回会議を行いました。出席者は柴田陽三理事長、井手淳二副理事長、畑幸彦副理事長（次期学術集会会長）、菅本一臣理事（学術集会会長）、菅谷啓之代議員（前学術集会会長）でした。

菅本先生から、本年度の学術集会は従来通りの学術集会に則り行うので安心していただきたいという主旨の説明があり、準備状況について独自に作成された計画表・会場図をもとに詳細な説明がありました。また、従来通り肩の運動機能研究会を併設する説明がありました。応募演題抄録は全代議員の評価を行うことを再確認しました。また、学術集会会長賞、韓国からの招待者、会場の併設数と発表形式などについて意見交換を行いました。

以上、学術集会検討ワーキンググループの発足の経緯、活動状況について報告しました。

事務局からのお知らせ

■登録情報更新のお願い
先生方のご所属先、ご自宅住所、メールアドレス、郵送物送付先の変更がございましたら、
更新をお願いいたします。
【更新方法】
1. 会員専用ページでの変更
2. 事務局へメールにて変更内容を通知 (office@shoulder-s.jp)

■会員専用ページのログイン方法
会員専用ページでは、登録情報の変更、年会費の支払い状況、理事会、社員総会の議事録、
JSES オンラインジャーナルの Account Number をご確認いただけます。
ログイン方法は、日本肩関節学会 HP のお知らせ欄に掲載しておりますので、ご確認ください。

表示件名： 雑誌「肩関節」のログイン方法について

■ JSES（Journal of Shoulder and Elbow Surgery）の閲覧方法
会員の先生方には、JSES オンラインジャーナルの Account Number を付与しております。
購読方法について問い合わせをいただいておりますので、日本肩関節学会 HP のお知らせ欄に
ログイン方法を掲載しておりますので、ご確認ください。

表示件名：JSES オンラインジャーナルの閲覧方法につきまして＜更新版
＊お試しいただいてもログインできない場合は、事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

■ 2017 年度年会費納付のお願い
2017 年度（会期：2017 年８月１日～ 2018 年７月 31 日）の年会費の納付をまだお済みではない
先生方に於かれましては、会期中までのご納付をお願いいたします。
＊再請求書を６月にお送りしております。

編集後記

広報委員会
国分毅

日本肩関節学会のニュースレター発行は今回で10回目となりました。

第10号では、柴田理事長の挨拶、第45回学術集会菅本会長の挨拶、各委員会からの報告を掲載しております。日整会総会やJOSKASなど学会シーズン中の原稿の依頼になりましたが、ご執筆いただきました先生方には心より感謝いたします。

柴田理事長の挨拶にもございますように、今年度からは肩学会期間中に開催されておりました会員連絡会が無くなります。各委員会からの重要な情報もニュースレターに多数掲載されております。多くの会員の皆様に目を通していただける充実した内容になるように、広報委員では検討を重ねております。巻末の編集後記まで、目を通していただける先生方が少しでも増えるように、今後もより一層の努力を行って参ります。

この第10号のニュースレターが皆さまのお手元に届くころには、ロシアで開催されているサッカーワールドカップも決勝トーナメントが始まっている頃かと思います。世界相手に活躍する日本代表の雄姿を是非とも見たいと思っております。肩の世界でも、既に多くの先生方が国際的にご活躍されておられますが、今後も会員の皆様の国内外での益々のご活躍を期待しております。

一般社団法人
日本肩関節学会
Japan Shoulder Society

編　集：一般社団法人 日本肩関節学会　広報委員会
望月由（担当理事）、北村歳男（委員長）、新井隆三、石田康行、大前博路、菊川憲志、国分毅、小林勉、中川泰彰、夏恒治

発　行：一般社団法人 日本肩関節学会
〒108-0073　東京都港区三田 3-13-12　三田 MT ビル 8 階　株式会社アイ・エス・エス内
TEL 03-6369-9981 / FAX 03-6369-9982
E-mail office@shoulder-s.jp　URL http://www.j-shoulder-s.jp/